

ハーフィンダール・ハーシュマン指数(HHI)

Q: ハーフィンダール・ハーシュマン指数とは何ですか

A: 市場の集中度を測る指標で、業界各社のシェア(市場占有率)を二乗した上で合計して求めます。二人の発案者にちなんで名づけられたもので、英語の頭文字をとってHHI(Herfindahl-Hirschman Index)と略されます。この数値が大きいほど、また合併などによる数値の増加幅が大きいほど、市場の寡占が進んでいると判断されます。

例えば、10社が10%ずつシェアを分け合っている市場のHHIは1,000、3社のシェアが70%、20%、10%の場合は、 $70^2 + 20^2 + 10^2 = 4,900 + 400 + 100 = 5,400$ と計算されます。このように、各企業のシェアの格差が大きく、また市場に参加する企業数が少ないほど、HHIは大きくなります。

Q: 最近、HHIは注目されているのですか

A: 独占禁止法は、製品価格の不当な値上げなど競争の制限につながるおそれのある企業結合(合併、買収、営業譲渡など)を禁じています。実際には、「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針」(企業結合指針)にそって、公正取引委員会が個別の案件を審査します。今年3月、この指針が改正され、HHIがより重視されるようになったのです。

Q: 具体的に企業結合指針はどのように改正されたのですか

A: 今回の改正は、公正取引委員会による審査の行方を企業が事前に

予見しやすくする、また手続きの透明性・迅速性を向上させる観点から行われたもので、重要なポイントは二つあります。

第一に、実質的な審査を要しないとされる数値基準が変わりました。従来は「企業結合後のシェアが10%以下」などシェアを重視した基準でしたが、市場全体へのインパクトをより明確に把握できる指標として、米国や欧州連合で採用されている「企業結合後のHHIとその増加分」に一本化されました(図表)。国境を越えた企業合併・買収(M&A)では、一つの案件を複数の独禁当局が審査する可能性があります。日本だけ物差しが異なると企業にとって不便になるという判断から、国際的な整合性が重視されたわけです。

第二に、審査対象とする市場の地理的範囲について、これまでは原則として国内市場でしたが、経済界からの要望をうけて、必要に応じて海外にも広げることが明記されました。世界規模で競争している業界、例えば半導体やパソコンなどでは、世界全体での寡占度が基準になるもの

とみられます。

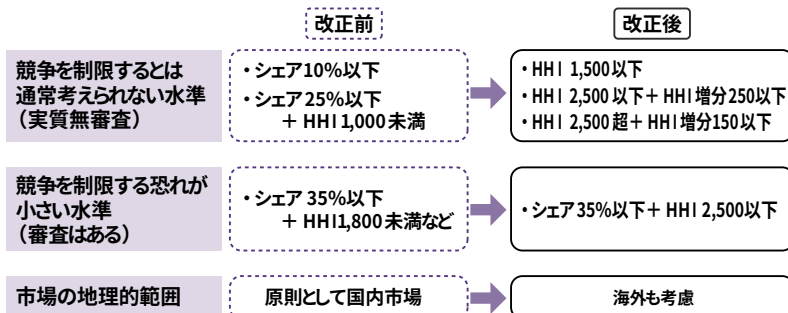
Q: 指針改正の評価や影響は

A: 従来の指針では、シェアが35%を超える案件を基本的に審査対象としていましたが、実際にはシェア35~50%の案件のほとんどは「独禁法上の問題なし」と審査で判定されていました。今回の改正では、こうした過去の審査実績を指針に反映させ、両者の乖離を埋め合わせることに主眼がおかれました。

産業界では、「全般的に審査の予見可能性向上に資する内容」(経済同友会)などと、今回の指針改正をおおむね肯定的に評価する声が多いようです。世界レベルでの競争にさらされながら、国内シェアが高いため合併は難しいと考えていた企業などを中心に、今後、競争力の強化をにらんだ企業再編が増えるものと見込まれます。□

みずほ総合研究所 政策調査部
主任研究員 野田彰彦
akihiko.noda@mizuho-ri.co.jp

●HHIがより重視される改正後の企業結合指針



(資料) 公正取引委員会「「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針」の主な改正内容」などにより、みずほ総合研究所作成